

令和8年5月1日

患者様各位

青葉を吹き抜ける風が心地よい季節となりました。皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。クリニックのイチヨウも、あっという間に瑞々しい緑に包まれました。日に日に強くなる日差しを、頼もしい緑陰が和らげてくれる季節がすぐそこまで来ています。

カレンダーをめくると「皐月(さつき)」の文字が目にとまります。

この美しい響きを持つ言葉の由来をご存知でしょうか。古来、五月は苗代で大切に育てられた苗を本田へ移し植える「早苗(さなえ)」の季節でした。この「早苗を植える月」という意味の「早苗月(さなえづき)」が、いつしか縮まって「さつき」と呼ばれるようになったと言われています。田植えを終えたばかりの田んぼには、整然と並ぶ早苗を包み込むように、たっぷりと、そしてキラキラと輝く「水」が湛えられています。しかし、この豊かな風景を支える「水」は、決して無限ではありません。私たちの暮らしを支える神奈川県内のダムにおいても、近年は降雨量の変動により、貯水率の低下がたびたび懸念されています。水不足は農業への影響のみならず、私たちの社会生活全体に警鐘を鳴らす課題です。

特に医療の現場において、水は「生命の源」そのものです。例えば人工透析治療では、たった一回の治療で、患者様お一人あたり120リットルから150リットルもの清浄な水が必要とされます。田んぼが水を湛えて稲を育むように、透析における水もまた、患者様の体内を浄化し、生命を明日へと繋ぐ極めて重要な役割を担っているのです。

蛇口をひねれば当たり前のように流れ出る水。しかしその一滴一滴は、初夏の田園を潤し、私たちの健康な日常を支え、誰かの大切な命を繋いでいます。水が豊かな季節だからこそ、その尊さを改めて心に留め、感謝の気持ちとともに健やかな初夏を過ごしていきたいものです。

今後も引き続き、「患者様第一」を心がけ、質の高い医療を提供すべく、診療に遺漏無きよう努めてまいります。何卒よろしくお願いいたします。



医療法人社団茅ヶ崎セントラルクリニック

院長 仙賀 裕